

14.5

000

14.5-990



1200501219778

×  
複写

帝國鐵道協會編  
回教の特質と回教徒對策に就いて  
アフガニスタンの近況



始



96

41

回教の特質と回教徒對策に就いて  
アフガニスタンの近況

帝國鐵道協會

# 例言

一、前篇は昭和十八年十月十二日本會に於て、回教圈研究所長大久保幸次氏を招じ開催した中央亞細亞橫斷鐵道調査部第十回講話會の速記録であり、後篇は同年十二月二十一日第三回本調査部會に於て講演された内務省技師小林源次氏講話の速記録である。

一、大久保氏は回教研究の權威として著聞してゐる。小林氏はアフガニスタン國土木顧問として滯留數年、歸朝された。兩篇は共に上梓に先だち夫々の御校閱を経た。茲に特記して深く感謝の意を表する次第である。



昭和十九年二月

帝國鐵道協會



## 中央亞細亞橫斷鐵道調査部資料

- 第一輯 中亞の交通路に就いて（昭和十七年十月）
- 第二輯 イラン・中亞及アフガニスタン事情（同上）
- 第三輯 サハラ縦斷鐵道建設（同年十二月）
- 第四輯 ツラン民族運動と中央亞細亞橫斷鐵道（同十八年三月）
- 第五輯 中亞橫斷鐵道の車輛を語る（同年十月）
- 第六輯 回教の特質と回教徒對策に就いて（同十九年二月）  
〔アフガニスタンの近況（同十九年二月）〕

## 回教の特質と回教徒對策に就いて

宗教といふものは色々ございまして、現に行はれてゐる宗教にも十一種ほどございます。それらの名を地域別に申上げますと、先づ日本には宗派神道といふものがあります。これには天理教とか金光教とか黒住教とか扶桑教とかあり、何れも獨得な日本の宗教で、大抵徳川中世以降から明治初年にかけて現はれてゐます。

それから支那には儒教と道教とがあります。儒教は宗教といふよりは寧ろ倫理、道徳であつて、他の宗教では未來を説きますが、儒教では御存じの如く未來を説かない。これは實踐的に社會や家庭を淨めることを眼目とし、宗教といふ名に相應のしくありませんが、假りに宗教として置きます。それから道教はよく老子から出たと申しますが、はさうでなく、後に支那の南北朝時代に神仙説や、息災延命といふ支那の現實的な思想を基礎とし、老子を神格化してこれを教祖として持つて來て出來上がったもので、これは宗教と云ひ得るものと思ひます。非常に現實的に現世利益といふものを重んじて居りますから、大變支那人に喜ばれまして、支那民間の信仰と云へば道教であると迄に言はれて居る位の勢力を持つて居ります。

次に印度には佛教を始めとして色々宗教が出て居りまして、一番古いのが婆羅門教であります。今は婆羅門教の形は變化し、これに印度の民間信仰などが多分に加はつて印度教といふものになつております。その發展は七、八世

14.5-990  
967  
41

民を悉く教化してゐるといふ大きい使命を果してゐる譯であります。

これらの宗教にはそれ／＼特徴がありますが、大體亞細亞の東の半分に起つた宗教は汎神教、亞細亞の西半分から起つた宗教は一神教と言はれてゐます。この分け方が正しいか正しくないかといふことは問題で、これは専門家に譲りませう。汎神教といふものは御存じの如く、神といふものがあつたとしてもそれは決して人間から離れて居るものでない。佛教でいふ總てのものに佛生があるといふ説も汎神的思想であると聞いてゐます。つまり神様と人間とは互に融和出来るものであると云ふ説です。ところが一神教はさうでない、一神教といふものは世界を支配する絶対無限の一つの神様があつて、それは人間とは全然離れて居る。無論人間を愛し、人間を導いて行くが、人間はどんなに修行をしても神様になれないのであり、人間と神とは全く違ふものであるといふやうに一神教は説く。何故そんな風に、片方の亞細亞の東に起つたものが汎神教であり、西に起つたものが一神教であるかといふと、これは學問的にはいろいろの説がありますが、氣候風土にも相當關係してゐるらしいのです。詮り亞細亞の文化圏は二つに分れる、一つは濕つた所であり、一つは乾いた所である。濕つた所といふのは日本、支那本土から南洋、インドへかけての東南亞細亞で、よく雨が降り、産業は農業でありまして農耕が經濟生活の根本となる、非常に暑い所もありますが、大體に緑の濕潤地帯となつてゐます。それからこの亞細亞の西半分は乾燥地帯で非常に雨量が少ない。それで大部分は沙漠か草野か高原から出来てゐる。従つて經濟生活の根源は牧畜であります。さういふ所では乾き切つて見渡す限り砂原である。又は草野が漚てしなく續いてゐる、さうして夜になれば紺青色に澄んだ空に星が瞬きます。さういふ所の

紀頃で、今も二億五千萬位の信徒があり、基督教、佛教、回教、その次に位する大宗教です。しかし、信徒は多くてさいますが、主に印度に行はれてゐる爲に世界宗教と言はない。例の南洋のバリ島には印度教が行はれてゐます。御存じの佛教は印度に發達致しましたが、この半島を離れて、東亞細亞の方に傳はりました。ヤイロン島や、泰、ビルマに行はれてゐる佛教は我々の大乘佛教と違つて、小乗佛教と言はれるものですが、前者を北傳佛教、後者を南傳佛教といつた方が正しいです。西藏や蒙古には喇嘛教といふ北傳佛教の一派がある。それから佛教と殆ど前後して耆那教といふ宗教が印度に起りました。これは前に申上げた婆羅門教と佛教の間のやうなもので勢力は微々たるものです。それから北の方にシークといふ印度教と回教を突混ぜたやうなものが行はれてをります。

それからイラン地方でゾロアスター教といふ宗教が生まれました。これは佛教より少し古いが、世界の凡ゆるるものと光明の神と暗黒の神の二つに分けました。マツダランプのマツダといふのはこの光明の神様の名前である。この宗教は今衰えてボンベイ附近に約十萬位の信徒がある丈である。大東亞戰爭前までは横濱、神戸、その他にゾロアスター教徒の商人も相當居たやうです。

それからユダヤに起つた猶太教、それから基督教、回教など、かういふ宗教が十一派ありますが、これらが世界に現在行はれてゐる宗教であります。無論南洋やアフリカ、シベリア等に色々な宗教がありますが、これは未發達の原始宗教に過ぎません。かやうに高度の宗教は悉く亞細亞から起つてゐる。さうしてヨーロッパや南北アメリカ、南アフリカ等に行はれてゐる基督教も亞細亞から起つたものである。この點に於て亞細亞から起つた宗教は世界二十億の

人々は神様が厳しく、高いところにあつて天地を支配して居るやうに感ずる、そこで一神教といふものが起つたといふやうに極く常識的に解されるのでありますが、これも確かに一理あることであります。併しその詮索は止めまして次の問題に入ります。

四

世界の三大宗教は佛教、基督教、回教であるが、その中で佛教が一番早く今から二千五百年位前に起つてゐる。それから六百年ばかり経つて基督教が起り、更に六百年ばかり経つて回教が起つております。即ち回教と佛教との間に約千年の隔りがある。それですから歴史的に観ますと、マホメットがアラビヤで開教した頃は、日本では聖徳太子が御活動遊ばされた飛鳥時代に當ります。従つて回教の起つた時が、日本では推古天皇の御代であるといふことから見ても、回教は相當遅く起つた宗教であるといふことが言ひ得る、詮り今から千三百年位前に起つた宗教であります。

そこで今申上げた世界三大宗教の中で、佛教は——所謂汎神教に屬し、基督教、回教はともに一神教で大變近いものです。しかし基督教と回教はいづれも、その源は猶太教である。猶太人はセミチックといふ種族に屬しておりますが、猶太人、アラビヤ人等、今のセム族の住んで居るところはイラクの西南部からシリア、アラビヤを経てエチオピア、リビア、アルジェリア、モロッゴと北アフリカに及んでゐます。このセム族も昔は多神を信じてゐましたが、凡そ三千五百年位前にモーゼといふ豫言者が出来まして、一神教の基を開きました。それがエホバの神で、この一人の神があつて天地を支配して居るといふことを猶太人に教へたのであります。

ところが、このエホバの神は非常に嫉妬深い神様で、自分以外を拜する民族を嫌悪する結果、猶太人の神様になつたのであります。そこで、猶太人は自分だけ、眞の一人の神様を信する優秀な民族であるといふ考へを抱くやうになりました。猶太人は世界に千五百萬位居りますが、大部分はヨーロッパとアメリカに住し、その一部が郷土のパレスティナに居る。かれらは熱心な猶太教徒であつて、必ず自分達の支配する時代が來るといふことを信じて居る。それでありますから猶太教の神様は猶太人のみの狭い神様である。ところが基督教が出て、猶太の荒ぶる神様に愛といふ性格を興へ、狭いエホバをば廣い人類に發展させました。それで猶太教が民族宗教であるに對して、基督教は世界教として民族、國境を越えて方々に傳へられるやうになつた譯であります。ところがマホメットが出て、又エホバの狭い神を愛と正義の廣いアツラーの神に説いたので、すなはちマホメットの説いた神も矢張り人類の神であつて決して民族の神でないのです。然らば基督教のエホバの神と、マホメットのアツラーの神とは何處が違ふかといふと、非常に大きな違ひがある、基督教で説く神といふものは三位一體で、父と子と聖靈と、三つのものゝ合つた神といふことになつてをります。それはアダム、エバの話に溯りますが、實は基督教や猶太教や回教の教理に従へば、アダムといふものは人間の祖先なのです。このアダムがエバの誘惑に負けて、智慧の實を食べた。そこで初めて自分達が裸で歩くことが耻しくなつて無花果の葉を附けたといふことが聖書に書いてあります。その時に天國から追はれてしまつたアダムとエバに對して、神様が、今は二人を神に叛いた罪により罰するが、必ず救世主を送つて救済をするといふ約束をしました。そこでこの猶太人は救ひ主を待つて居る。ところが救ひ主と稱してキリストが出て來た。し

五

六  
かしキリストの考へ方は猶太人の考へ方と違ふので、猶太人は法を誣ふものであるといつてキリストを十字架に架けてしまひました。ところがキリストは神の子で、アダムの過失によつて人が負ふてゐる原罪を救ふ爲に神の遣はした一人子であるといふ信念をもつてゐます。ですからキリストは人間であつて同時に神様である。マリヤは處女でキリストを生んでゐますから前のやうな原罪をもたず、従つてキリストは人の罪を救ふ資格を持つてゐるといふことになるのです。かやうな譯で基督教の説く神は一つであつても、天の父と子たるキリストと聖靈の三つが重なつてゐるのです。然るに回教ではそれに反對を唱へてゐるのです。神様は始めも終りもなく、産みも、生まれもしない絶對的な靈格であると説きます。ですからマリヤといふ人間の女の胎を借りて神様が子供を産むといふことはなく、神様といふものは飽く迄も靈であるといふ立場を執つてゐる譯です。そこが基督教と回教の神格の大變違ふところであります。従つて、同じ一神教でも、回教の説き方が、一番一元神といふことを徹底させてゐるやうに考へられます。これは先刻別室でお話が出ましたが、さういふ一神を主唱してゐる回教も、東の方に弘布される過程で、印度の思想や佛教の思想の影響を受けて來まして、萬物が神の姿を示現し、總てのものに神が内在するといふ汎神教的な發展を遂げ、神人一如になるといふ所まで到達しました。無論これは回教では正統派ではありませんが、とにかく極端な一元神的な性格が却つて汎神的方向への發展へ導びいたといふ例として御話するわけでありませぬ。

◇  
回教は前行の宗教といふものを否定してゐません。例へばマホメットが世に出る前に、神は各時代を通じ、各地方

へ豫言者を送つて、正信を人類に傳へしめたいといふのです。だからかやうな豫言者は凡て尊むべきもので、只マホメットは最後に出た最大の豫言者であるといふやうに教へて居ます。従つて回教に従へば、マホメットに次いでキリストも、モーゼも尊敬すべき豫言者であります。回教徒は政治的・經濟的には基督教徒と仲が悪いので、基督教徒の方では眞向から回教を敵視し、經典コーランを偽の書となし、マホメットを偽の豫言者であると云つて罵倒して居ります。しかるに一方回教徒の方はキリストを豫言者として尊敬し、またバイブルを聖典として取扱つてゐます。茲に回教にも東洋的な宗教としての寛容性が認められます。回教とさへいへば、排他的な面が餘りに誇張されて我々の間に傳へられております。回教徒は頑固で異端を惡み、異教徒を殺せば天國に行かれるといふやうに考へられて居りますが、それには非常に誤解されてゐるところがあります。「劍かコーランか」といふことは回教徒に對する常識になつて居ります。基督教や、佛教徒は平和な傳道に依つて傳へられたが、回教はさうでなくして劍を以て強制的に教を擴められたといふことが、日本人の乏しい回教の知識では最も代表的なものとなつてゐます。しかしそれは間違である、一口に云へば回教徒と仲の悪いヨーロッパ人が回教徒を誣ひた宣傳に他なりません。回教徒も時と場合に依つては劍の力で強制的に教を擴めたこともありませぬ。しかし、これは基督教徒の場合でも同様です。基督教が亞細亞、アフリカ、アメリカに傳へられる時には、とかく、政治、軍事、經濟的侵略に結び付いてをりました。ですから基督教徒は回教に對してさういふ惡口を云ふ資格はない譯である。そこでマホメット自身もコーランの中に「宗教は強制すべきものにあらず」といひ、又自分が戰を挑まれた時にこそ劍を以て立つことが許されるといふことをはつきり云つ

て居る。ですから回教徒の宗教に關聯して持つ劍は護法のためであることが原則であります。かれらが政治的や、經濟的の進出や侵略のために劍をもつことは、これは別のことであります。故に回教徒が無闇に劍を抜いて、教を弘めるといふのは、畢竟西洋人が排他的な考へで回教を誣ひたのですから、我々はさういふ考を捨てなければいけないと思ひます。

中央亞細亞から支那へ廣く回教が擴まつたのは元の時代からであります。支那には約三千萬の回教徒が居ります。十三世紀蒙古から起つた元が支那を統一しましたが、蒙古人は遊牧民で文化の程度も低いし、教も少ない、そこで、歴史も古く文化も高く、しかも數が多く生活力の強い漢民族をどうすれば統治出来るかといふことを考へました。そこで色目人といふ民族的階級を自分達と支那人との間に置いた。これは西方の文化民族で、例のマルコポーロもその一人です。どういふ譯で色目人と云つたかといふことに付ては色々の論がありますが、つまり鼻の高い眼の引込んだ西方の人達のことです。御存じの通り元の版圖は日本と印度の南と、小亞細亞の西及びシベリアを除いた全アジアとヨーロッパを含んでおりまして、さまざまの色目人が居る。その中で最も手近なものは中央亞細亞からイラン地方に住んで居るトルコ系、イラン系の回教徒であります。その回教徒を使ひまして、夷を以て夷を制する政策を行ひました。すなはち、回教徒を優遇して地方長官その他の役人に任命しました。そのトルコ系やイラン系の回教徒が支那の各地に定住し、支那婦人を娶つて、長年の間に遂に三千萬の回教徒の根元になりました。むろんこれを契機として西から多くの回教徒の商人が支那に移住して來ました。それから南方にも約六千萬の回教徒が居りますが、そ

こは印度の回教徒商人が商賣をしながら土著民に回教を傳へたことが元です。回教には宣教師といふものがなく、僧俗の區別がありません。ですから基督教の如く特に宣教師を派遣しないで、官吏や軍人や商人が、それ相應に自分の持つて居る力で回教を弘めるのです。ですから南洋回教も印度人の外にアラビヤ等から來た商人たちが、スマトラ、ジャワ、セレスといふやうに順々に巡つて教へたものです。その間に政治的な勢力も次第に扶植されるやうになりました。今もスルタンと稱する回教の土著王侯の澤山居ることは御存知の通りであります。大東亞の回教徒といふものは、さういふ風にして支那の場合でも、南洋の場合でも主として平和的手段を以て弘められたので劍が用ひられたのではないのです。

一體、猶太教、基督教、回教といふものは同一系統に屬してゐますが、發展過程を異にしてゐます。猶太教徒は世界に散在し、基督教は専らヨーロッパに向ひ、ヨーロッパ人の發展するにつれてアメリカ、オーストラリア等に傳はつた。その間にこの教はヨーロッパ化せられ、ヨーロッパ文化の一つの基礎となり、同じ東洋から發生した宗教でありながら西洋の宗教のやうになつてしまひました。ところが回教は反對に東へ東へと發展の方向を辿り、アラビヤから出てシリア、イラク、イランの方面に進み、それからアフガニスタン、中央亞細亞、印度に傳へられました。印度では、印度教と接近して、その教徒の風俗習慣の影響を受けました。それから更に南洋へ傳へられ、印度教の外に土着民の信仰を包容して大に地方色を發揮して來ました。一方支那に傳へられた回教は、儒教、道教、佛教の影響を受け、支那獨特の回教として發展して來ました。さういふ風に回教は東へ東へと移行する過程において、純亞細亞的な



思想、習慣の影響を受けて、益々亞細的な宗教として發展してしまつた。それでありますから基督教と回教とは一神教で、いづれも猶太教から發足してゐるが、一方がヨーロッパ人の宗教としての存在を示してゐるに對して、他方はアジア人の宗教としての立場をとつてゐるのであります。日本はこれまで回教徒との關係は極めて少なかつたですが、矢張り佛教や儒教や印度教のやうに回教も、我々アジア民族の一つの宗教であるといふ點に注意して、これに新らしく關心を持つことが必要であると思ひます。

次は回教分布とどういふ民族が回教を信じて居るかといふことについて概要をお話申上げたいと思ひます。

◇

回教徒の分布状態を北の方から観ますと、先づ滿洲、蒙疆、支那であります。回教徒の数はいづれもはつきり判かつてゐません。滿洲では人口約四千萬の中、百分の一の四十萬位ではないかと思ひます。奉天附近が一番多いのです。それから蒙疆の數もはつきり判かつてゐないが五六萬の見當かと思はれます。次に支那を一つの單位としてこれは約三千萬と言はれます。北支那が回教徒の密集地で、殊に甘肅省は人口の半數位、新疆省は殆んど全部が回教徒です。内地では雲南が最も密で四川などにも相當多く居ります。それから新疆省を越えたと、ソヴィエト聯邦の中央アジアでは、殆んど全部回教徒で、此處には御存じの如くウズベクスタン、トルクメニスタン、カザクスタンなどといふ回教徒の共和國が形成されて居ます。さてウラル山を越えてヨーロッパ・ロシアに入りますと、ヴォルガ河とウラル山の間には回教徒が澤山住んで居る。これはイデイル・トルコ人で俗稱はタタルですが、日本に居る回教徒の大部

分はこの系統に屬してゐます。更に南にはコーカシヤ、クリミヤ地方にも回教徒は多く、ソヴィエト聯邦には凡そ二千五、六百萬の回教徒が計上されます。ソ聯の人口は一億七八千萬ですから、二千五、六百萬と云へば相當な數であります。それからバルカン半島のユーゴスラビヤ、ブルガリヤ、アルバニア邊に約四百萬の回教徒が居る、また歐亞に跨つてゐるトルコにも約千八百萬の回教徒が居ります。獨立國でこれほど多數の回教徒を持つてゐるのはトルコの外にありません。

次に南の方を觀ますと、これは先づ南洋から始ります。この南洋には約六千萬居ります。その中の四千五、六百萬はジャワに屬してゐます。かやうに多數の回教徒が一地方に密住してゐるところは外にはないのです。それからマライ半島には華僑とほぼ同じ數の二百餘萬居ります。その外スマトラ、ボルネオ、セレベス、小スンダ諸島にも居ります。フィリピンにはスペインが占領してからカトリックを強制的に弘めましたから、回教徒は驅逐され、僅かにミランダオ島地方に約六七十萬のモロ族として代表されるのみであります。佛印は大部分が支那から傳へられた大乘佛教、儒教などで、こゝの回教徒の數は、はつきり分りませんが、二十萬位居ります。なほ泰及びビルマにも各々六十萬内外の回教徒が居ります。

それから印度には回教徒が八千萬ばかり居る。印度の人口が約三億五千萬餘でありまして、印度教徒が二億五千萬居りますから、それに比すれば八千萬は小數ですが、印度程一つの領域内で多くの回教徒を包括してゐるところはない。南洋が六千萬、支那が三千萬ですから、印度を入れますと大東亞には回教徒が全體の半數以上集つて居るといふ

ことになりす。さればこそ日本にとつては回教徒政策といふものは非常に大きな問題となるのです。

印度から西に行くと、アフガニスタンに一千萬、イランに一千二百萬位の回教徒が居る、更に西に行きますとイラク、シリア、サウディアラビア、その他の諸國全體で一千萬位居ります。それからスエズを越えてアフリカに参りますと、エジプトに千三百萬位の回教徒が居る、その他オーストラリアにも南北アメリカにも回教徒は居りますが、これは僅かなものに過ぎません。これで觀ますと回教徒三億二千萬のうち、その二億餘がアジアに居るといふこと、それから二億の中の半數は印度を除いた大東亞に居るといふことが分ります。

今、國々に分けましたが、次にどういふ民族が回教徒になつて居るかといふと、北の分布地域では新疆省が大體境になつて居ります。新疆省から東の方は支那民族、新疆省から中央亞細亞、コーカシア、ヨーロッパ、ロシア、バルカンからトルコへかけては殆どトルコ民族です。例外として中央アジアにタジックといふイラン民族が居ります。またユーゴスラヴィアにスラブ族、アルバニアにアルバニア人も居ります。これは少數です。しかし南の分布地域は相當複雑して居る、この區域ではマライ族が代表的です。次に印度に参りますとインド・アリア族があり、アフガニスタン、イランはイラン族、イラク、シリア、パレスティナ、サウディアラビア、エジプト、北アフリカにセム族のアラビア人、その中、アルジェリア、モロッコへかけては、ハム族のベルヘル人、アフリカがネグロ族などが主なものです。



今、回教徒の分布と歸屬する民族のお話を申上げましたが、この回教國といふものは、單に回教徒が多く住んでゐる地域といふばかりでなく、別な世界を構成して居るといふところに重要な意義があります。それは、かれらの特殊な生活圏であり、また、文化圏に他ならないのです。

さういふ例を一二、重點主義でお話申上げたいと思ひますが、今日は十月十二日で、偶然にも回教曆の十月十二日に當ります。世界の回教徒は九月一日から三十日まで斷食をしました。ところが丁度今年、かれらの九月一日が我々の九月一日に當つたのであります。回教徒は太陰曆を使つて居ります。その一日といふのは日没から次の日没までである。それですから今日の十二日といふのも昨日の日没から始つております、ですから今日の日没から、早くも十三日となり、その十三日は明日の日没まで續きます。さういふ譯で、純然たる太陰曆である。一ヶ月は三十日と二十九日と交替で、従つて一年は三百五十四日ほどで、閏年がないから毎年十一日位づゝ早くなつております。それですから回教徒の九月の斷食は決つてゐますが、曆の關係で九月の斷食は段々繰上つて、秋になつたり、冬になつたり、春になつたりしてぐる／＼廻ります。さて、この斷食はどういふのかといひますと、日出から日没まで何も食べません。水を飲むことも煙草を吸ふことも、唾を飲むことさへ不如法とされます。結婚も避けられます。詮り一切の煩を斷ち、精進をする月であります。支那人はこれを潔齋と云つてゐます。何故さうかといふと、九月はアツラーの最初の天啓のあつた月です。すなはちコーランがマホメットに與へられた時で、神聖な月だからであります。そこで一切の煩惱を斷つて潔齋精進をする月とします。故にその月は人から擲られても、自分は擲り返さないといつて慎む位

です。しかし、日没になると食事をし、それから寺に行つて特別の禮拜をします。又日の出の一寸前に何か少し食べ、日の出とともにその日の断食が始り、かうして一ヶ月も続きます。経験した人に聞くとその月は身體が非常にさつぱりするさうです。しかし夏の如きは日が長いのでその間の断食はかなり難行のやうに思はれます。断食月は、回教徒の信仰が昂揚する月でありますから、いろいろな問題も起るやうです。また、かれらは、この一ヶ月は國防献金をするとか教育費を募るとか、慈善事業をするとか、良いことに過すことになつてゐます。しかしながら兎に角さういふ風に一ヶ月續けて一日中断食をして居るといふことはなか／＼辛いことでせうから、コーランも除外例を設けてあります。すなはち、断食の義務は理性をもち健康のある成年者に課せられるもので、子供とか病人、妊婦、乳兒のある母親、老人、旅行者などは除外される。それから戦線に立つて居る兵士、苦役に従事して居る労働者も矢張り除外されるのですが、さういふ人達が健康體になるとか、常態に復するとすれば、その償をします。

断食の業は近代生活の關係から色々考へられることでもありませうが、回教徒は、大體忠實に守つてゐます。凡て宗教の行事は理論だけでは批判できませんから、第三者の立場でとやかういふことはできない場合が多いと存じます。しかし、ともすれば、日中の断食は生活の運行上の障碍となり、また仕事の能率を低下させる傾向があるらしいので、回教徒隨一の近代國家であるトルコは、かうした宗教行事と現代生活との關係について考慮を拂ふやうになりました。回教國の體制は政教一致であります。回教の經典はコーランですが、他教の御經と違ふのは同時に法典であることです。何故ならばマホメットが出て來た頃にはアラビヤは全く未開であつたので、かれは彼等に高い宗教を説

いて、靈魂を救ふといふことでは不十分であつたので、一般俗界のことまで指導したので。例へば高利の禁止など、商業道德、また婚姻制度のことなども教へました。かやうなことは凡てコーランに書いてあります。すなはちコーランは教徒の信仰のための經文とともに、回教徒の社會生活を律する法典ともなつてゐるのです。そこで政教一致となる譯です。ところがトルコはそれは時代に適合しないといふ立場で、政教分離を断行したのです。すなはち、アッラーは唯一絶対の神であるとか、マホメットがその使徒であるといふ信仰の部分は眞理であるとしても、取引などに關する規定は今から千三百年前のことで、その時代では最高のものであつたらうが、時代の進歩とともに當然變化すべきものである。回教徒が何故西洋諸民族に遅れたかといふと、かやうに過去のものをそのまま現代まで墨守してゐるところに原因するといふことに結論したのであります。この考へ方は、偉人ケマル・アタテルクによつて現實化され、宗教と政治とは、ここに全く分離させられてしまつたのです。従つて断食といふものも制度であつたものが、トルコでは個人の良心的問題となつてしまつたわけです。しかし、他の回教國では、中々さうはゆきません。たとへば、アフガニスタンは純然たる回教國家で、コーランが國憲の源流であり、従つて憲法には造酒、飲酒の禁止や女子の覆面の着用などといふことが記されてゐます。

ここで一寸つけ加へておきますことは、われわれに知られてゐるジャワ正月は、實は九月三十日に断食が始まると十月三日まで開齋祭といつて祝ふその祭日で、とうとう日本の新年のやうに訪問し合ひます。すなはち、ジャワばかりでなく全世界の回教徒の祝日なので、そこに回教の普遍性が認められます。

◇  
 そこで何故この断食といふ問題をこゝに持つて来たかといひますと、これは前にちよつと申上げたことに關聯して來るのでありますが、回教には僧侶と俗人の區別がありませんから回教の勤行は信徒全部に課せられてゐるので、そこに重要さがあります。基督教にも佛教にも断食といふものはありますが、それは、任意的のものであつたり、僧侶階級のみ勤めとなつてゐる場合が多いのです。ところが回教では前に申上げた例外の外は信徒全部がやるのですから、自然かれらを信仰的に團結させる動因となります。さういふ點に、回教の強味があります。その他の勤行でも同じで、信徒全體の勤めであります。ですから、回教徒は一般に宗教的な教養に富んでゐます。例へば葬式の場合などでも、萬一導師がゐなくとも、會衆のうちの年長の者とか、智徳のすぐれた者とかがその役目を果して、滞なく済ませることがあります。回教徒は金曜日を聖日として守ります。基督教は日曜、猶太人は土曜です。ただ、これもトルコだけは日本や歐米同様に日曜日が休日です。何故日曜日にしたかといふと、日本や歐米諸國のやうに世界の經濟界に活躍してゐる國々は日曜日に休みますが、回教徒は銀行も會社も金曜日に休んで、日曜日は仕事をして居ます。かやうな場合にヨーロッパと直接交渉の多いトルコだけが金曜日に休んで、日曜日に仕事をするといふのでは、その爲に經濟生活に非常な支障を來してどうしても激しい現代生活に歩調を合せて、進歩發展することは困難です。そこで金曜日の代りに文化世界に共通な日曜日を休日にしたのです。それとともに太陽曆を採用しました。ただ宗教の行事のみは一般回教徒と同じく太陰曆を使つております。さて金曜日はどういふ宗教行事をするかといふと、回教徒は一

日五度アツラーに禮拜を捧げます。何故かといふと、これは人間が食事をするやうに、精神的の食事であるアツラーとの交渉をしなければならぬといふことで、日出前、晝少し過、日没前、日没後及び夜の五回です。その前には必ず身を淨めるのです。その中で金曜日の晝少し過ぎの禮拜は最も重い公式の禮拜である。ですからトルコが日曜を休日にしたといふことはこの金曜の禮拜をするのに何等差支ないのです。何となればそれは晝休みの時間に當つてゐるからです。日本でも回教徒は金曜日に寺院に集まつて禮拜をやつて居ります。それですから金曜日には回教徒を休ませるやうにすることが肝要です。さうしないために、よく失敗してかれらの感情を害することがありました。フィリッピンの住民の大多數はカトリック教徒ですが、六、七十萬のモロ族といふ回教徒が居りまして、かれらは剽悍であります。回教の戒律をよく守り、やはり金曜日に休むことを欲してゐるのです。このことは注意する必要があるやうと思ひます。

◇  
 それからこの禮拜について申上げたいことは、一番初めにお話したやうに回教では神は靈格であつて、眼に見えず、生まれ、産まざるもので、無形無終であるといふ立場から神象といふものを作りません。ですから回教寺院には本尊らしいものは何も置いてありません。従つて寺には禮拜する爲の對象物はないわけです。それならばどういふ風にして禮拜するかといふと、聖都メッカの方面に向つて禮拜するといふことになつてゐます。メッカにはカーバといふ大本山があります。コーランにも、信徒は何處に居つてもこのカーバの方に向つて禮拜をするやうに書いてありま

す。それで回教寺院は全部メツカの方を正面として建てられて居る。日本には今東京代々木、神戸、名古屋に寺があり、今月京城にまた一ヶ寺出来たさうですが、それが皆メツカの方を向いてゐる。支那で清真寺といはれる回教寺も西又は西南を向き、南洋の寺は西又は西北を向いてゐる。ベルリンにもパリにもロンドンにも寺がありますが、これは東南を向き、アフリカ内地の寺は東北を向いてゐるといふやうにいづれも正面がメツカに集中されてゐる。ですから、もしこの講堂で禮拜するとすれば、回教徒は磁石を持つて来てメツカはどつちの方面といふことを見て席につきます。それですから不斷怠つて居る者でもこの金曜日の晝になると、全世界の回教徒同様頭をメツカの方に向けて神を禮拜するのです。これ程大規模な、これ程統制された宗教儀式はないと思ひます。これは回教徒を精神的に結付けてゐます。能く南洋あたりで、晝頃になるとボーイが居なくなる。何して居るのかと思ふと、身體を淨めて禮拜をして居るのです。かれらは、時間さへ来れば、寺ばかりでなく、往來でも、沙漠でも禮拜するのです。われわれはかやうな、かれらの宗教心を尊重し、できる限り自由に宗教的行事を認めてやるといふ態度が必要です。かれらにとつては、宗教は實に生活そのものなのです。

回教徒は今お話しましたやうに僧俗の區別がないばかりでなく、宗派や民族が違つても勤行や儀式には大差がありませんから、これもかれらの宗教的團結に大いに役立つております。この回教徒間の繋りといふものは大いに心得ておく必要があると思ひます。そこで大陸と南洋問題といふものは、別なものでありますが、對象が回教徒である限りに於て同じものです。否、それは全世界に於ける回教徒對策を意味するといふことを考へなければなりません。決して

て地方的な問題でない。そこに回教徒對策の困難さが横たはつて居る。又この繋りの例を一つ添へますが、それは宗教用共通語としてアラビア語をもつてゐることです。コーランはアラビア語で書いてあり、従つてアラビア語は神聖な言葉として重んじ、その結果コーランの他國語への翻譯を禁止さへしてゐます。そこで日本でも、南洋でも、支那でも、西方回教諸國のやうに經文はアラビア語で讀むばかりでなく、禮拜をする時に用ふる法式の言語まで全部アラビア語です。ただトルコだけはアラビア語とトルコ語と兩方であつて居ります。ですから信徒はよしアラビア語の意義が解らぬでも、子供の時から馴れて居ますから、宗派が違つても、民族は異つてゐても一所に行事をする事が出来るのです。例へば代々木の寺でも、回教徒は十一種族を網羅してゐるさうですが、かれらは言葉も違ひながら、一齊にアツラーに禮拜を捧げてゐます。かやうな統一性は他の宗教には絶對に見られないことです。それ程回教徒といふものは繋りを持つて居ります。無論かれらの間にも對立はあり、鬭争もありますが、宗教のことになるとお互に結び合ふといふ一つの團結心を持つて居るのです。回教諸國のうち、今、イラン、イラク、シリア、エジプトなど、概ね敵英米の勢力圏になつております。しかし南洋の回教徒は日本によつて解放されました。印度も今や日本の手による解放を待つております。回教徒は、概ね弱體で、昔日の力を失つてゐます。しかし彼等は他の教徒や他の民族に勝つた宗教的な現實力と、相互の精神的な繋りと強靱な團結心を持つております。實際回教といふものは單に宗教だけの問題ではありません。それは政治、經濟、文化、風俗など、教徒の生活一切に關する問題を包括してゐます。ですから回教徒問題といふものの關聯する範圍は非常に廣いのです。例へば皆様が回教圏内に鐵道を敷く場合に、矢張り

沿線に居る回教徒民族の生活慣行などを能くお調べになつてやりますと、勞働力も能率的に用ひることも出来るし、旅客を運ぶ點に於ても思はざる好い效果を得ませう。それは往々にして我々の常識以外にあることがあります。近頃回教徒問題といふものは非常に現實化し、回教徒政策は當面の課題となつてゐます。しかし、その效果を得るためには回教徒といふものをよく理解しなければなりません。南方の民族は文化も生活程度も低いですが宗教には眞面目で、それは生活化してゐます。さういふものに對して、我々が第三者としての冷たい批判は慎しまねばなりません。敵米英の政策とは全く違つて、われらが、かれらを東亞共榮圏の建設のための良き伴侶として導びいてゆくといふ正しい企圖があつても、僅かなことを知らないが爲に逆効果になるといふことはあり得ることです。ことに宗教問題は周到な注意が肝要です。人口七百萬の小弱國オランダがこれまで六千萬の回教徒を支配し得たといふことは、彼等が能くその實情を知つてゐたからであります。そのオランダも最初南方回教政策には、随分悩まされたのですが學者を動員して回教の研究をやらせ、その研究の結果を實際の政策に應用して、遂に效果を収めたのでした。故に、大東亞建設のためには、もつと深く、もつと廣く回教と回教文化や生活を研究して、我々日本國民のそれに對する知識と理解とを高め、同じアジア民族として、ヨーロッパ諸民族を遙かに越えた正しく、良き政策の樹立へと進まなければならぬと存する次第であります。

いろいろ話があちらこちらと飛びましたが、この邊で終りたいと思ひます。御清聴を感謝します。—完—

## アフガニスタンの近況

只今御紹介を戴きました通り昭和十四年から五箇年間、何しろ言葉も判からんとところで、驚馬に鞭つて仕事をして参りました次第ですが、アフガニスタンの事情、殊にこの中央アジア横斷鐵道計畫に關聯した方面は甚だ觀察の淺いのを感むものであります。しかし、南方地區内に住ります澤山の回教徒又全世界の三億五千萬の回教徒の中で最も嚴重に戒律を守つて居りますアフガニスタンに、三年でも四年でも居りましたのですから淺い知識ながら暫くお話を申上げたいと思ひます。

今日世の中は決戰の様相を呈し、日本の世の中の狀態も私どもが國を出ました時とは天と地のやうに變つておりません。歸つて参りまして、何だか自分が今浦島ではないかといふ氣持でございます。嘗て畑であつた所に大きな工場が出来、又嘗て工場地帯であつた所はその十倍にも二十倍にも擴大せられております。これが戦後、戦が終了しました時に、その工業力の疏通口の一端として、斯ういふ風な中央アジア横斷鐵道計畫の如きは最も良い一つの仕事ではないかと思ひます。餘り時間もないやうでございますからアフガニスタンの概略を申上げ、その後で皆さん方の御質問に應じてお答へしたいと考へて居ります。

私のアフガニスタンに参りましたコースは、本土を離れて上海、香港、昭南、ベナン、コロombo、ボンベイまで船で参りまして、ボンベイから陸路を南部アフガニスタンの總督府所在地カンダハルに参りました。ボンベイからカンダハルに参ります間は御承知のタール沙漠と申しますが、その邊を通ります時には七月上旬でありまして非常に暑い旅を致しましたけれども、私ども何等病氣をすることもなく到達することが出来ました。その間一番體にこたへましたのは沙漠の中の汽車の旅ですが、寝て居りますと窓を透して入つて来る砂が朝になると毛布の上に一杯に積つてゐる、そんな所もございました。

アフガニスタンとインドの國境にニューチャマンといふ町があります。ボンベイから西方に當るカラチからニューチャマンまで一本の鐵道が通つております。その沿線にクエッターといふ都市がありますが、これは英國のインド經營に當る西方に於ける要地であります。東がカルカッタ、西がクエッターでありまして、クエッターを中心にして色々な軍事上の施設が施されております。

私どもがアフガニスタンに入ります時に一人のインド人のエンチニアが乗込みまして、それが我々を捉へて東洋の友達、お前達も眼の色が黒いが我々も眼の色が黒い、従つて友人であるから將來ともお互に仲良くしやうぢやないか、我々は今英國政府の命令に従つて、アフガニスタンの國境附近の要塞構築に携つて居るが、インドを日本人はどういふ風に觀察するか知らんけれども、文化の程度も相當に進んでゐること、思ふと云つて、彼は得意になつてインド人の文化の進んでゐることを喋りましたが、その末に、今アフガニスタンとインド國境附近の要塞構築の仕事をし

て居るので、トンネルの中に入つたら、俺達の友人の國の技師達に紹介しやうと申して居りました。それでチャマンから約五哩ばかり離れたクエッター寄の所に相當長いトンネルがある、そのトンネルの中で彼は重要な國境附近の機密設計圖を私どもに示してくれました。それに依りますと旅人が何の氣なしに通るトンネルにも萬里の長城の壁頂のやうな形の銃眼が附いており、外は何のことはない煉瓦で丸く造つてございましたが、内部は厚いコンクリートで補強されてゐるのです。又そのトンネル附近の停車場の構築圖を見せましたが、停車場の入口や階段の登るところ、さういふ細かいところ迄戰闘に即應するやうに工作物が造られてありまして、例へば梯子段を上がつて来る敵兵を如何なる角度から如何にしたならば射撃が出来るか、又その銃眼の方向はどういふ風に向けたら宜しいか、所に依つて角度を變へる工夫をして見たりして、その停車場或は停車場附近の設備、鐵道施設、旅人が看過し得る建物、工作物の一つ一つにも色々な軍事上の秘密が匿されてゐるやうに感じました。

アフガニスタンの地勢、風土等に就ては皆樣既に御承知のこと、思ひますが、私の觀たこと又經驗したことはこれは蛇足になるかも知れませぬが、一言喋らして戴きたいと思ひます。

アフガニスタンに入つて先づ第一に驚きましたのは風景の變化であります。兎に角インダス河の附近を旅行して居りますと、ところ／＼に沙漠もあります。兎に角非常に良い灌漑地もあります。山の様相を觀ましても、日本のやうに木は澤山ありませぬけれども、兎に角その中には猿も戯れて居りますし、孔雀もその邊を平氣で遊んで居り、何となく親しみ深い風景のやうに思ひましたが、一度國境線を越えてアフガニスタンに入りますと、これは想像もしな

かつたやうな、丁度子供の時にお話聞いた地獄の針の山を想像するやうな景色でありました。何れを見ても峨々たる山で、その峨々たる山が丁度繪に描いたやうに屹立つておりまして、又段々車がそれに近付くにつれて驚きましたのはその中腹以上は總て岩石であります。所謂山全體が岩塊から形成されて、風化作用に因つて岩が崩れ落ち又岩の裾が削られてゐる、山の總體が先づ岩から成立つてゐるやうに考へられました。従つて山頂には日本の山に見るやうな木はありません、草は側に行つて觀れば生えてゐることが判かりますが、少し遠くから觀れば草一本も生えてゐないやうな蕭瑟たる姿でありました。勿論日本の山のやうなふつくりした形もありません。どれもこれも屹立つてゐて、正に地獄の針の山の様相をしておりました。

御承知の通りアフガニスタンの概略の地勢は東北バミール高原から西南の方にかけて一つの屋根のやうな勾配を形成してあります。中部から少し北に寄つた方にヒンヅークシ山脈がございます。又東北部インド國境附近からベルチスタンの方に向つてスレマン山脈が走つてあります。このスレマン山脈に依つてインド洋からのモンスーンの影響を完全に遮断して、國境一つ越えしました中央アジア地區は非常な乾燥状態を呈してゐるのであります。

こゝで申上げますが、能く私ども内地に居りました時に沙漠と申しますと、直ぐそれはアラビアの漠々たる砂の沙漠を想像したり或はゴビの沙漠を考へたり、何だか砂が澤山あつて一晩の中に風に依つて移動して行く、草一本生えてゐない砂原を想像して見たり致しますが、このアフガニスタンに於ける大部分の地積を占めてゐる沙漠と申しますのは「沙」といふ字を書く沙漠であるが、アラビア邊りの沙漠は「砂」といふ字を書く沙漠であります。北滿洲の大

平原(草原)から草を引抜いて、その代り直径十センチ乃至五センチ位の小石をばら撒いた、それを御想像して戴ければアフガニスタンの所謂沙漠を考へることが出来るだらうと思ひます。北部ソヴェトロシアの國境にアマダリアといふ河が流れてあります。これは洪水敷を含めて幅約三キロ以上あります。そのアマダリア附近の一部及び南部アフガニスタン、カンダヘル州の一部に所謂純然たる砂沙漠がありますが、その他の部分は今申上げましたやうに水なきが故に不毛の地になつてゐる、従つて土地そのものが非常に肥えてゐるのであります。若しそこに何等かの方法で灌漑が出来れば取つて以て美田に化し得る土地であります。さういふ所謂草原に近い沙漠の土質は、こちらにお出での尾崎技師がよく御研究になつたことと思ひますが、非常に軽い砂が少し混つた粘土質のもので、粒が揃つてゐる。だから一雨雨が來たり或は水がかゝつたり致しますと安息角が非常に緩くなつて、日本のやうな玉石混りの土質とか色々なものゝ混り合つてゐる土と異つて、乾きますとこちゝ非常に固くなりますが、水に遭ふと非常にそれはだらしがない土質であります。私もカブール附近から源を發して西南イラン國境に至るヘルマンド河を中心にして運河を構築して居りましたが、その堤防の勾配を當初一割五分に見ましたところが、一雨來ますとそこに非常な勾配に變化を來たすので、そこで二割にした、二割にしても亦一雨來ると壞はれてしまひます。勿論その構築に當りましては充分なる設備はございませんでしたが、日本に於て經驗した工事に比べて非常に泥そのものが脆弱であるやうに思はれます。

またアフガニスタン國內には御承知の通り一メートルの鐵道もございませぬけれども、首都カブール、總督府所在



地のカンダハル、西部のクシク、ヘラツト等さういふ樞要の都市などにはドライヴウエーが出来ております。そのドライヴウエーと申ししても、唯坦々たる沙漠の中に幅十メートル乃至十五メートルの道路を面幅を残しその外側に側溝を造つて置く丈であるが、その側溝の爲に雨が来ても沙漠から流れる泥水が道路を横断しない様になつております。所に依り幅二メートルから三メートルの大きな側溝のところもございませぬ。その側溝の泥を掘つて道路の上を上げる、それがアフガニスタンの一等の道路の姿であります。毎年々々その道路が水害の爲め荒されてゐるところを観察致しますと、さういふ風な側溝の法の勾配は幾ら緩にしても駄目であつて、毎年々々荒されるところは大きな粗石で押へることが宜いやうに觀て参りました。即ち基礎そのものが粒の小さい粘土質ですからそこにマツシブなコンクリートをやつても直ぐひっくり返つてしまふ。それより岩塊を持つて来て所謂粗石積工か又は大石を寄せて置くといふ構築がこの土質には適ふと思ひます。

北部アフガニスタンのカプールから北の方トルキスタン附近の山の姿は南とは大分違つております。段々日本の山の景色に近寄つて参りますが、尙ほ山には大きな樹木とはございませぬ。たかゞ大きなもので二メートルから三・五メートル位のもですが、それも、日本で何と申しますか、桑、或は澁胡頹子、あゝいふ種類の木ですが、それが點々として生えてゐる丈であります。

次にアフガニスタンに於ける氣象を少し申し上げます。これは私ども四箇年半の間、些やかではありましたが氣象觀測所を造りまして自分達で測つて見ました。四年來の南部アフガニスタンに於ける夏季の溫度を申し上げますと日陰に

於て四十七度を突破したことがございました。日向に於ける夏の溫度は私どもの寒暖計はその用を果してくれませぬ。でお風呂に入りたい時にはバケツを表に出して置くと、暫くすると召使が来てお風呂が沸きましたと云つてくれる程度であります。冬の氣候は北九州邊の氣候と同様でありまして餘り苦しいことはありません、僅かに一年を通じて三日か四日薄氷が張る程度であります。北部アフガニスタンの氣象は、私餘り北部には住みませぬでしたが、偶々一冬約十五年振りでこんな寒さが来たといふ時にカプールで打つかりましたが、その時には零下三十五度までになりました、積雪一メートル五十でした。夏になりますとカプールで過すことになつておりますが、夏のカプールは日本の輕井澤位の氣候とお考へになれば宜からうと思ひます。唯日本の暑さとアフガニスタンの暑さ寒さの差は、あちらは大陸的でありますし、總體的に乾燥してをります關係上、日陰で攝氏四十七度の暑さでありまして、日本のやうに暮し難いことはありません。能く映畫や寫眞で御覽になる通りに、インド人と同様にアフガニスタン人も矢張り頭にターバンを巻いて居ります。又夏の眞ツ盛りでも外套に似たやうなものを着て歩いて居るアフガン人を見受けますが、今にしてそれを考へれば彼等は幾ら暑くとも汗をさう澤山かきませぬ、暑さの恐しさより日光の直射を怖れます。日光の滲透力を怖れます。その爲に頭の上にあゝいふターバンを巻いたり身體に厚いものを着て日光の直射を防いで居るのであります。

南部アフガニスタンに於ける一番低いところで標高八百メートル乃至八百五十メートルございませぬ。これは私どもの測定は非常に杜撰ですから責任を以てお答へ出来ませぬけれども、バロメーターで測つたところに依ると八百メー

トル乃至八百五十メートル、北部の方に行きまして二千メートル乃至二千五百メートル、さういふ風に聞いて居ります。勿論平地のお話でありまして山の上は、バミール高原近いところは五千メートルの所もございませう。

先程も申しました通り、アフガニスタン國は全體を通じて僅かにインド國境附近に近い山の中に一つの密林地帯がある丈で、その他の地方は概して禿山であります。殊に山の様相から云へば南部アフガニスタンの山は本當に岩丈であります。僅かに北部トルキスタン地方に参りまして、先程申しました通りにちらほら樹木がある丈で、實はこの國の森林資源の乏しいことには驚き入る次第であります。彼等はその乾燥した國內で山の中腹に横井戸を掘り、そこから自然地表面勾配より緩やかな流水勾配を以て水を地表面に導く事を心得て居ります。彼等自身それをカリイズと呼んで居りますが、これはアフガニスタン人及びインドの一部、この邊に（と地圖を指す）住んで居つた人間が自分の種族を保ち今日まで繋いで來た一番重要な仕事のひとつだらうと思ひます。山の中腹に澤山の横穴を掘りまして地表面の勾配より緩やかな勾配で地表面まで導いて、それを灌漑用水に使ひ又日常の用水に使つて居ります。さういふ小さな水の流れの附近には主として柳を植えます。その柳は唯切つてそれを挿木にする丈で、二、三年經ちますと立派な柳の並木を造り出します。又アフガニスタン國內に於て一般用材として使はれてゐるものに桑の木があります。日本では桑の葉で蠶を飼ひますが、彼等は蠶を飼ふにあらずして、桑の幹を用材とし、又その木から採れる桑の實を非常に好んで食べます。大きなものになると直徑三十センチ乃至三十五センチの、こんな太いのが部落に澤山ございませう。

アフガニスタンの地勢風土はその位に致しまして、次にアフガン人とアフガニスタン國の概略を申上げて見たいと思ひます。

アフガニスタンは今でこそこんな茄子のやうな形をして、イラン高原の沙漠の上にぽつかり浮ぶ船のやうな貧弱な存在をしておりますが、その昔は北はソ聯、トルキスタン地方及び東はインダス河からカシ米尔以西にかけて大きな國を形成したことがあるさうであります。それが長い間ソヴェットとイギリスの政争の具に供せられたり或は成吉思汗が元寇の役に日本攻略に失敗して後に陸路中央アジアを征服した時に、この邊を非常に目茶苦茶に荒し廻つたさうであります。さういふ外患の爲に今は非常に小さな國になつてしまひました。カブールから西北約百五十哩ばかり離れたところにバミリアンといふ古跡がございませう。そこに参りますとアフガニスタンへ回教徒が入る以前の佛教徒の遺跡がございませう。バミリアンの兩側には大きな山がありますが、その山の側壁に丁度日本に於ける埼玉縣吉見の百穴を百倍、千倍したやうな窓が澤山見えます。所謂その窓の中には地下の都市が出来てゐる、そしてその都市の全體中央と思はれるところに鎌倉の大佛より脊の高い佛像が岩窟の中に立派に彫られております。私どもは機會があつてその中を一度觀たことがございませうが、實に綺麗な堂宇、又綺麗な壁畫が、丁度日本の古寺の中にあります様に佛釋迦様とか佛様の繪が巧みに描かれております。歴史に依りますと大體アフガニスタンへ回教が入りましたのは八世紀頃で、アフガン人がアフガニスタン國を造りましたのが九世紀の末か十世紀頃と云はれておりますが、それ以前には佛教徒がこの邊迄領有し、大いに繁榮をしてゐたのではないかと想はせるやうな遺蹟であります。又西部の都ヘラ

ツトには非常に大規模な回教徒の堂塔伽藍の廢墟があります。嘗てイランと戦争した時に兵燹に罹つて荒廢に歸したといふことでありますが、今残つて居る伽藍の殘骸を見ても非常に雄大な規模であり又その一つ一つの工作物にありませぬ彫刻の姿を観ても、描いてある繪の存在を観ても、私も美術には暗い者ではありますが、甚だ驚嘆に値するところのものが見受けられるのであります。又北の方マサリシャリーフといふ土地には、回教徒の教祖マホメットの女婚に當るアリーといふ人を祀つた堂がありますが、最近その堂の一部分が破損をしてドイツ人及びイタリア人技師の手に依つてある程度補修せられました。補修せられたところと昔ながらのところとを比べて見ますと矢張り今よりは昔の方が精巧に感ぜられるのであります。そのやうに國內各所に残つております遺跡を調べて参りますと、昔はこんな蕭瑟たる姿でなく非常に繁榮した姿であつたやうに思はれるのであります。

先程申しました様にアフガニスタンの中には一メートルの鐵道もございませぬ。そして國內の樞要都市は自動車に依つて交通をし、又第二種第三種の道路は唯沙漠の中に必要な道路幅を採り側方に石を標識代りに路線に副ふて積並べてゐる丈であります。従つて斯様なところは餘程丈夫な車でなければ通行出来ませぬ。さてこそ駱駝か馬か或は驢馬に依つて交通してゐるやうな次第であります。

御承知の通りアフガニスタンは西暦十八世紀の頃、隣の英領インドとの間に第一次、第二次、第三次の所謂アフガン戦争を致しました。そのアフガン戦争の結果イギリスから外交權を奪はれて、その代償として年々五百乃至六百ルーピーの年金を戴いて暫く鎖國同様の状態を強ひられて來たが、今から約二十年前アマヌラハンといふ英主が現はれ

て歐洲を旅行した結果、外國の文化を採入れて昔のアフガニスタンの繁榮を取戻さうと決心して急速に國內の改革に乘出されたのであります。しかし惜むらくは年二十八歳の弱冠の王様は餘りに血氣に逸りました結果、世界で一番嚴重に戒律を守つてゐるアフガニスタンのことでありますから僧侶階級から嫌はれまして、最近までイタリアに亡命して居つたと聞いて居ります。その後二代の王朝を経て現王朝は今から十數年前より銳意國內の改革運動に乘出されまして、アマヌラハンの遺志を繼いで地味に根強く實行されてゐるのであります。第一に教學の振興、第二に國語の統一、第三に産業の開発、大體この三つの目標に向つて目下大童に努力中であります。第一の教學に付てはアマヌラハンが國內の改革を志しました時に、文盲の徒が九十パーセント乃至九十五パーセント以上であつたと聞いて居ります。然るに今ではアフガニスタン國內には二百五十乃至三百近くの國民學校が造られつゝあります。又少し大きな町には中學校の設備があり、首都カブールには國立大學、法律學校、農學校、工業學校、工藝學校、醫科大學校及び女學校の設備すらございまして、最近は五、六百人の女學生が修學中であります。又軍部の方では陸軍士官學校、陸軍幼年學校があります。今一つ、指導者は政治と宗教、これの將來完全な分離を志まして、カブール市内に日本の宗教大學に匹敵するやうな僧侶の學校を造つております。

この教學に付て附言致したいのは國民學校より大學を卒業する迄の教學費は全部國の負擔であります。國民學校で成績優秀な者を政府の命令に依り中學に入れ、中學で優秀な者を又命令に依つてカレッヂに入れ、大學に入れる。その總ての費用は國で拂つております。所謂彼等が國家有用なる人材を如何に今熱望してゐるかといふことの一つの現

はれであると思ひます。

又國が行つて支辨しております施設に教學の他に醫療機關があります。醫療機關も建前は矢張り國が支辨することになつております。非常に古い夢のやうな御伽噺のやうなアフガニスタンでありますが、イギリスに強ひられて已むを得ず鎖しておつた扉を今漸く開いて朝風に身をさらし、鋭意やつてゐるかのやうな感じがするのでございます。古い國で新しい國、言換へれば夢から醒めつゝある國といふ風な感じが致します。

第二の國語の統一、これは一種の根強い國粹運動のやうなものであります。アフガニスタン國內の種族は大別しますと四、五に分けることが出来ると思ひます。先づ宗教的に分けますとマホメットの弘めた回教、回教の本當の元の宗教、マホメット直系の宗教を今日まで固く守り續けておりました種族にスンニー派と稱するものがあります。スンニー派は純アフガン人が信仰しております。それからペルシヤから流れて來たイラン系の人達は先程申しましたマホメットの女婿に當るアリーの弘めた宗教を守つております。これを Shia 派と云ひます。彼等の間では兩方とも熱心な信徒であります關係上表面はスムースに交はつておりますが、腹の中には何か割切れないやうな感じが私どもに感じられました。北部にトルコマン人、ウズベック人といふ種族が居ります。又東部並に中部の山岳地帯にヘザラといふ種族も居ります。これは先程申しました成吉思汗が中央アジアを征服致しました時に相次いで移殖して行つたモンゴル系の人種であります。純アフガン人はアリアン系に屬して容貌と云ひ、體格と云ひ男女とも優秀であります。私どもは、御参考に申し上げますればアフガニスタンに於ける第三階級の中に屬するものである。純粹のアフガニスタ

ン人の容貌は、正直なところ、男女とも日本人より立派な姿をして居るものが多いやうに見受けられます。

國內の交通運輸系統は、唯一本の鐵道すらなく、自動車道路としても僅かに重要な都市を繋ぐ丈の現況でありますから種族間の往來も少なく、意思の疏通を缺くことが非常に多いのであります。それで現王朝はこゝに觀るところがありません、十年以來アフガン人はアフガンの國語を使へといふ、さういふ運動が起つて參りました。今でも役人及びバザール、商店の經營主、さういふ人達は日に一時間づゝ命令に依つて純粹のアフガン語である「プントウ」を勉強して居りまして、今まではアフガニスタンの公用語はペルシヤ語で書きましたが、來年度からはこれが「プントウ」に變ることになるだらうと思ひます。これは國內の統一上最も有效な政策の一つぢやないかと思ひます。

第三の産業開發、このことに付ても政府は非常な力を入れて大業であります、何しろ斯ういふ風な乾燥地帯の水の少ない荒寥たる土地でありますから未だに見るべきものとはありません。先づ農業に付て云ひますればアフガン人の主食は羊肉と麥であります。麥は廣袤七十二萬方里、人口一千萬乃至一千二百萬人のアフガン人がどうやら食つて行くことが出来る量はあるらしいのでございます。その他に農業に依り外國に現在輸出してゐるのは南部アフガニスタン地方の果實を擧げ得る丈であります。南部アフガニスタンは先程も申しました様に非常に暑いところであり、こゝにメロン、水瓜、葡萄或は石榴、桃、胡桃等、さういふ種類のものがあります。特に南部アフガニスタンで有名なものは葡萄であります。葡萄の種類は私よく知りませぬが、七十何種類かあるといふことを聞いて居ります。しかもこの南部アフガニスタン地方の果物の輸出額はこの國の經濟上の見地より輕視出来ない額と聞いて居ります。北

部アフガニスタンに於きましては最近棉花の栽培が勃興して参りましたが、まだその處理過程に於て充分でないところがございまして輸出額としては餘り大した額ではないやうであります。その他に沙漠の中へ彼等は羊、山羊、牛、駱駝等を放牧して居り、この牧畜から上る輸出額も相當のやうに聞いて居りますが、まだ皮革類を國內に於て處理する丈の技術には達しておりませぬ。皮類は全部鹽漬にして外國に輸出してゐるやうであります。しかし政府は北部に於て農事試験場とか色々と努力を致しまして砂糖の自給自足に向つて熱心に活動しておりますが、私どもこの量に付ては今申上げる丈の材料を持つて居りませぬ。しかし時々バザールの中にはこの位の(と形を示す)、丁度日本の饅頭のやうな形に固めてある砂糖が賣られてゐるのを見るのであります。

地下資源に付きましては色々風評がありますが、これは未知數と申上げるのが一番宜からうと思ひます。嘗て、西北の邊境、ヘラツト市の附近に於てアメリカのスタンダード石油會社が數年に亘つて調査したさうであります。アフガニスタンの上下汎ゆる階級の者に向つて質問するのでありますが、或る者は大したものなかつたと云ひ、又或は資源はあるが、あると云へば直ぐロシアの爲にそれは取られてしまふ、こゝに資源があるといふことはロシアの爲に國を亡されることである。アフガン人は將來アフガニスタン自身が技師を持ち、アフガニスタン自身がそれを處理する丈の力を持ち得る時期までそれを伏せて置くといふことを云ふ者もありますし、その何れが眞であるかは私自身としては決定することが出来ずに参りました。しかし南部アフガニスタンのカンダハル市附近に於て嘗てイタリヤ人が試掘したといふ金鑛を観たことがありますが、その中には餘りブーアでない鑛物が僅かでありましたが、私自身

の眼で見得る機會を得ました。北部トルキスタンを旅行して居りました時に私自身の手で、貧弱な餘り良いものでありませんが、石炭の缺片を掴み出したこともありましたが。又首都カブール附近の堰堤工事をやつて居りました時、碎石山から僅かな量でありましたが、黄銅鑛の鑛石を發見したこともありましたが。

アフガニスタン總體の地質と致しましては先づ水成岩が多いやうであります。澤山の中には火成岩らしい地質も混つております。このアフガニスタンの國內にも一、二温泉があります。又トルキスタン附近ではある時に貝の化石が現はれました。これをドイツの學者が、非常に古いものであるが、嘗てはアフガニスタンは海の底であつたのではないかといふ判定を下されたといふことも聞いて居ります。従つてアフガニスタンの地質は大體に於て水成岩であるが、ところ／＼火成岩が混つてゐるといふ類であります。

アフガニスタンに於ける地下資源は以上述べましたやうに未知數であるといふのが結論ぢやないかと思はれるが、御承知の通りこゝには今でも一本の鐵道も敷いてありませんが、私どもアフガニスタンに入つた瞬間に何故こゝに鐵道が發達しなかつたかといふ疑問を持ちました。爾來機會ある毎に要路の方に尋ねて見ました。或る者は國防の關係上鐵道は發達しなかつた。アフガニスタンとソヴェエツトとの境は河で防衛する、インドとの境は大體山で防衛してゐる。若しこの國內に鐵道を敷いたならば戦争の場合に直ぐソヴェエツトから、或はイギリスから進攻されてしまふ。斯ういふことを當時聞いて居つたのであります。しかしその後飛行機が作戰上に非常に多く使はれるやうになつて鐵道の作戰上に於ける地位が低くなつて参りました。それでもアフガニスタンには鐵道敷設の聲が餘り高くな

つておりませぬ。嘗てドイツ人技師の手で、私ども入つて参りましたがニューチャマンから南部カンダヘル地方と、ヘラットからソヴィエットの國境近いクシク間の、この鐵道建設計畫を建て、その計畫は殆ど完成してゐると聞いて居りましたが、しかし今以つてそれは實行に移されてゐませぬ。恐らくアフガニスタンに今まで鐵道が勃興致しませぬのは地下資源の調査が不十分でまだその開發の時期に達してゐない、今一つは國內の工業力が鐵道を必要とする程度に達してゐない、又鐵道敷設をするに必要な資源の一部分すらもアフガニスタン國內から取り得ない、言換れば經濟上の隘路の爲に今にアフガニスタンに鐵道が發達しないといふ結論に達するかと思ひます。

アフガニスタン國內に於ける工業の外観は、國內に今五つの水力發電所がございます。しかしその規模は非常に小さくて現在に於ける出力は、一番大きなもので一萬二、三千、小さなもので千から千二、三百キロかと思ひます。その位の程度であります。カブールから北部マザリシャリーフの中間に「プリホムリー」といふ新開地がございます。こゝは非常に暑いマラリヤの多い谷間でございますが、そこに水力發電所を造り、その水力發電所を中心にして紡績工場地帯を造りました。私どもが嘗てアフガニスタンに入つた時にはアフガニスタンの市場に流れる綿布類の七、八十パーセントはメード・イン・ジャパンでありました。アフガニスタン人は我々日本人の姿を見る前に日本品を通じて日本に夢を持つて居たのであります。然るに歐洲大戰が勃發し、延いて大東亞戰の勃發につれて日本品の輸入の道が杜絶してしまひました。そこで政府は銳意このプリホムリーの紡績工場を擴張して今では彼等の需要の一割位はこゝから出るやうに聞いて居ります。私の着て居りますこの服地もアフガン製ですが、大體この位の程度のもので出来

るやうに今なりつゝあります。その五つの發電所の利用方法は、一つはプリホムリーの紡績工場に他は大體燈用に供されてゐるやうであります。カブールに一つ綜合工場がありまして、自動車修繕工場、鐵工場、木材加工工場、石材加工工場といふ風になつておりますが、まだこゝこれは多量の電力を必要とする程度に完備しておりませぬ。又カンダヘルに綿を締める工場が完成致しましたが、これも始終は運轉しておりませぬ。プリホムリーを除くと發電所の電力は主として燈用に供せられてゐる現状であります。

次にアフガニスタン國內の土木工事の概要を説明致しますと、今國で一番要望してゐるのは水であります。先程から繰返して申上げました通り、アフガニスタンの所謂沙漠は水さへあれば美田に化し得る性質のものでありますから、政府は有ゆる機會に、有ゆる場所に運河計畫を樹てゝおります。私どもが参りましたのもヘルマンド河を利用して一秒時六十立方メートルの水を以て百五十萬チリーブの耕地を得る目的の下にボグラ運河の構築に努力して來た譯であります。一チリーブは二千平方メートルであります。その他ヘルマンド河左岸にサラジ運河があります、これは一秒時十二立方メートルであります。その他一秒時五乃至十立方メートル程度の運河は全國に多數あります。

道路交通方面に付きましては、今施行しております一番大きな工事は首都カブールからカイバル峠を越えてインドのペシヤワルに達する幹線道路の一部「タンギ・ガルー」といふところでありませぬ。これは冬期凡そ二百日の間、日々四千人の徵用人夫を使つて施工しつゝあります。私どもの關係したヘルマンド河を水源とするナリボグラは日々八千人の人夫を使つて冬期二百日づゝ毎年やつておつたのであります。さういふ沙漠の中に附けます道路工事は、左様

な大きな河を渡つたり又崖の附近を蜿蜒廻る時にどういふ構造をしてゐるかといふ疑問をお持ちになりませう。大體アフガニスタンの橋梁ですと大きな河でない限りこれは大概煉瓦造であります。その煉瓦も日本のやうな立派なものでありませぬ、日本のやうな立派な燃料もなく唯沙漠の中に生えてゐる「ハール」といふ棘草を乾燥したものを燃料として焼くから非常に粗雑なものであります。その煉瓦と沙漠の中の石塊を焼いて作る石灰とに依つてアーチを拵へます。その迫持の姿が日本のさういふ構造物に比べて違ふところは、非常に總ての寸法が大きい丈であります。煉瓦そのもの、石灰そのもの、強度が弱い關係上寸法を大きくして渡つております。そしてヘルマンド河とかさういふ大きな河や、非常に水の荒く流れるところは外人技師の手に依つて或は鐵橋を架け或はコンクリートのガードを構築しております。

次にアフガニスタン人の宗教に對する信仰狀態或は諸外國に對する氣持、或はこの大東亞戰爭に對する考へ方、さういふものゝ概略を少しばかりお話ししたいと思います。

今迄のアフガニスタンに關する文献を読んで見ますと、大分アフガニスタン人は日本人からは評判が悪いやうに思はれます。所謂アフガニスタン人は怠惰者であるとか彼等は朝から晩まで御祈りをしてよく仕事をしない等々、悲觀すべき材料の方が多いやうに思はれて參りました。私、四年半の生活から觀ますと、これは少し修正さして戴きたいやうに思はれます。丁度日本の國民が大御稜威の下に日本の國家を背景として立つ時に大和魂といふ凜然たる華が咲きますが、彼等アフガニスタン人が回教を背にして立つ時にそこに所謂「ムツソリマン」魂(回教魂)といふものゝ咲

き香りしましたことは歴史に明かであります。彼等は朝の五時に起きて河で手足や首を丁寧に洗ひます。そして西の方サウジアラビヤなるマホメット教の聖地メツカに向つて深き御祈りを捧げますが、彼等の河に行つて手足を洗ふ狀態を觀ますとそれは眞劍そのものです。冬の寒い時でも帽子を取り靴を脱いで手足、口を綺麗に洗つて、洗つた後は別に拭きもせず御祈りをして居ります。我々日本人の中には神社に行つて參拜致します時に、御手洗に行つて申譯的に指の先を濡し、口の先を濡して而もそれが冷いから鼻を拭いたハンカチを出して手口を拭つて御祈りする者をたまに見受けることがあります。さういふ者に比べますと彼等の信仰に對する態度は非常に敬虔なものゝ様に思はれます。ちよつと雌犬が來て着物の裾でも舐めると直ぐ河で洗濯する、又インド人に觸れたら直ぐ河でそこを洗つて來ます。回教徒は豚を食つてはいけなとか、其の他御經の中に書いてあることは彼等は身を以て守つて居ります。信仰に生れて信仰に生き信仰に死んで行く、それがアフガニスタン人の姿であります。私は四年半の間彼等と親しく交はり、初めの中には非常に變に思ひましたが、朝五時に一回、晝食前に一回、晝食後一回、日没後一回、就寝前に一回、日に五回御祈りをする、それは決してだらけたものでなく、信仰の深き一つの現はれであります。又私どもの觀てゐましたアフガン人の頭腦の働き又アフガン人の人情といふものも、私は長くゐたせいか知れませぬが、どうもアフガン人に最負したいことが澤山あるのであります。今までは文盲の徒ばかりでありましたが、偶々現王朝になり教學の振興が叫ばれ、國語の統一が叫ばれ、そして産業の開発が進んで行き、最近まで日本に居りましたやうな、あゝいふ風な留學生をもつと海外に派してそしてその國の中にアフガン人の實力ある基礎を造り又指導者階級を造り得る頃に、若

し世界の中に廣がつて居る三億五千萬人の回教徒が一つの回教圏を造る機會が到來するならばその時にはアフガン人はその首位に位しない迄もリーダーの一員として伍することが出来る程度の國民となるかと思はれるのであります。偶々この國が大東亞共榮圏の外廓を防衛する位置にあり、又世界の中で一番戒律を嚴重に守り續けて來た回教國でもあります。今一つ、アフガン人その者の日本人に對する氣持——彼等は古い昔より北はソヴィエツトから、東はイギリスから虐げられて來ましたが——私がアフガン人に、お前はイギリス人が好きか嫌ひかと聞きますと、上下の區別なく、インテリでも農夫でも牧夫でも一人の例外なく、イギリスは「セータン」であるといふ言葉で現はします。セータンといふのは日本語で云ひますと卑怯、狡猾、陰險といふ意味ださうであります。彼等は例外なくセータンといふ言葉で英人を貶す、そしてロシアに對しては殘虐といふ言葉で貶す。それで日本人とは眼の色も同じであるし、頭髮の色も同じで、我々も矢張りアジア人であるとお世辭を云つて居りますが、私の一つの觀方は、彼等の隣接國に對する立場と日本のそれとが大分似たところがあるのぢやないか、彼等が常に強國に虐げられてゐると同様に、日本も彼等の敵性國であるソヴィエツトとかイギリスとかの勢力と戦ひ續けて來た歴史を持つております。さういふ風な立場上の氣持の上にも何か親しい流れがあるのではないかと思ひます。最近大東亞戰爭の勃發につれて皇軍の東に南に勇戦奮闘する有様を觀て、彼等は益々その感を深めて居ります。殊にビルマの獨立しました時に、同胞が血を以て購ひ得たその土地を又再び原住民に返し與へた、さういふ風なことは今までのどこの國でも爲し得なかつたし、又どこの歴史にもさういふことはなかつた。日本人の道義心の深きことに、彼等は今滿腔の敬意を拂ひつゝあるのであり

ます。偶々當協會に於てアフガニスタンを經由する中央アジア横斷鐵道の計畫調査をなされてゐることを聞きました時に、私は是非とも皆様のお力に依り、皆様の心からの聲援に依り、アフガニスタンの研究を進められ、將來は大東亞共榮圏の兄弟國の一つとして盛立て、戴きたいといふやうに考へたのであります。(拍手)

——完——



昭和十九年二月二十五日印刷  
昭和十九年二月二十九日發行

昭和十九年二月二十五日印刷  
昭和十九年二月二十九日發行  
非賣品

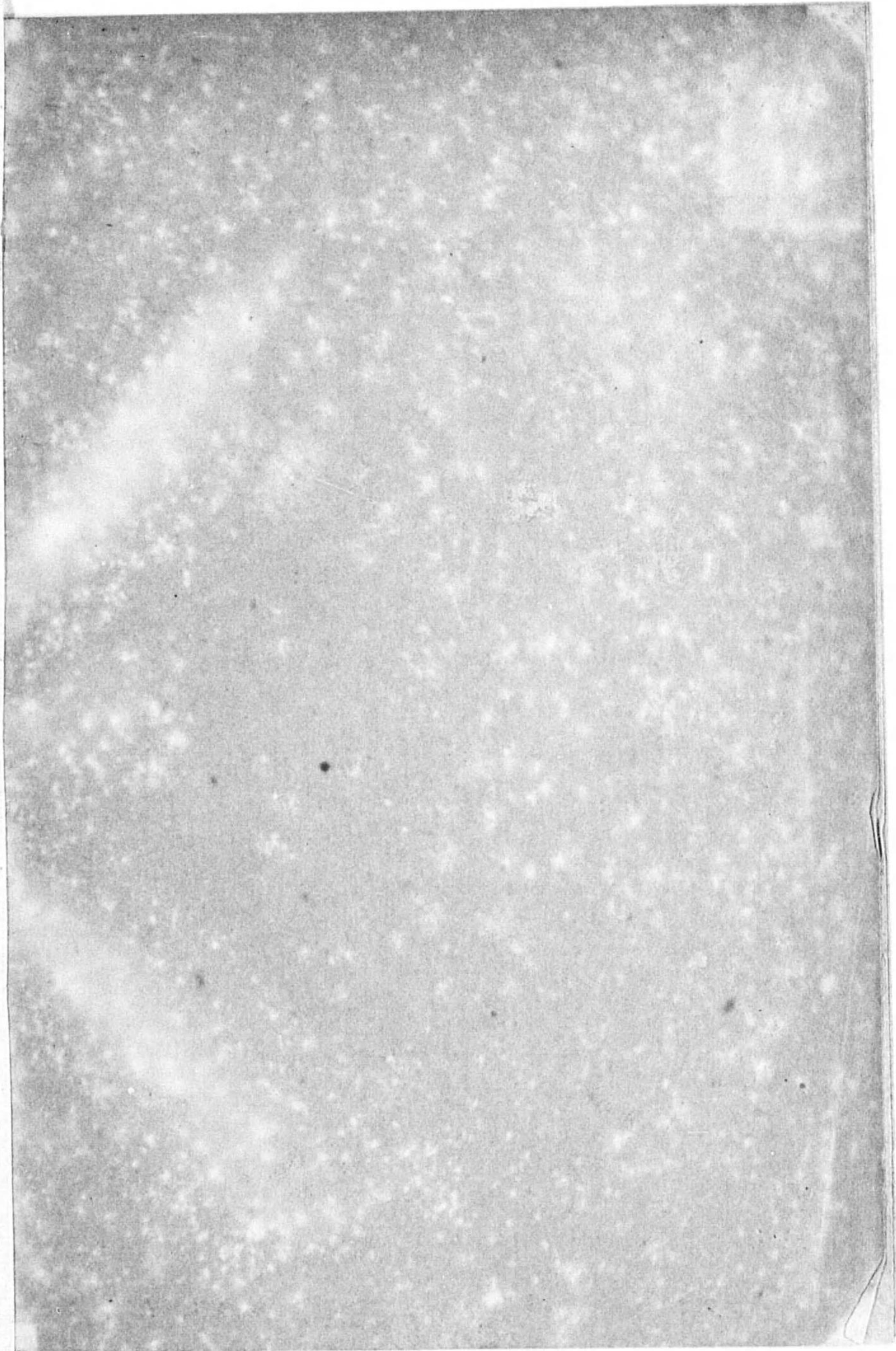
東京都麹町區丸ノ内三丁目四番地  
帝國鐵道協會  
編輯者 河崎 精一  
發行所 東京都芝區芝浦二丁目三番地  
印刷者 長尾 文雄  
印刷所 東京都芝區芝浦二丁目三番地  
進合

製本館外帶出控

書名	969	圖	41	號	年	月	日
氏名	同教, 惣集, 同教統録, 第1巻, 第11乙 アアガニズクニシテ						
							冊

東京 山崎 印刷

145  
990



終